

ARTS for HOPE 現地視察報告書

2015年2月8日～10日

2月8日／宮城県牡鹿郡女川町



中心部。一部には生々しい傷痕も残る

震災遺構に対する住民のさまざまな思いを残しつつ、津波の凄まじさを物語る横倒しの建物は、解体・撤去された



かさ上げ工事が進む中心部。昼夜問わず什器が稼働していた



町内で初めて完成した災害公営住宅。陸上競技場だった場所に200戸が並ぶ

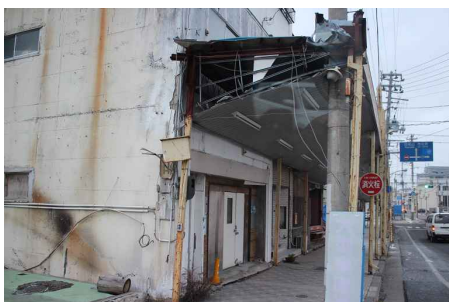


『津波記憶石』が示す津波の高さが想像を絶する。「この石碑より高いところに逃げて」。女川中学校卒業生が後世に伝えるメッセージが刻まれている



来月3月の開通を待つ女川駅。周辺整備が急ピッチで進む

2月9日／宮城県石巻市



川沿いには当時のままの建物が残る

2月10日／福島県浪江町～双葉町～大熊町

福島第一原発の近く、富岡町～双葉町間の国道6号線の通行規制が解除された。
高線量の問題、犯罪の問題が残る。



あの日から時間が止まったままの町



通り沿いの店舗、住宅、脇道の全てに張りめぐらされたバリケード。人的被害によるものか、荒れ果てた店舗も



通り沿いは、作業員、警備員、警察、工事車両、作業員を乗せたバスなどで激しい往來をみせる

福島第一原発近く。異様な空気が増す





帰宅困難区域に集積された夥しい量の汚染土壌が風景を埋め尽くす。双葉町、大熊町は中間貯蔵施設建設の受け入れを表明。保管期間の30年、住民は帰れず、なし崩し的に最終処分場になるのではと、不安の声も上がる

